

国際バカロレア導入とIB教員養成のニーズ

～グローバル人材の育成は、3歳からのIB-PYPと小学校英語から～

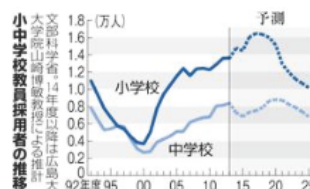
鈴木 克 義

はじめに：2021年度からの小学校教員採用数急減に備えよ

小学校教員の採用数は、第2次ベビーブームによる児童増、団塊の世代教員の大量退職などで2000年頃から新規採用が増え、小学校教員養成をする私立大学は05年度には51校だったのが、13年度には156校と3倍以上に増えた。

ところが広島大大学院教育学研究科の山崎博敏教授によると、子どもの人口減少の影響をもろに受け、採用は2021年度から急減し、25年度には今より約5千人減の約1万7千人にまで落ち込むという。(図表1、朝日新聞2014-9-14)

初等教育課程を持つ教育学部は、生き残りをかけて定員の縮小など対策を迫られるが、こうした状況の中で2020年度以降も確実に採用が見込まれるのが、全国2万1千校以上の小学校で教科化が行われる英語専修の教員と、文部科学省が導入を進めている国際バカロレア(IB)カリキュラムで教えられる教員である。



図表1：朝日新聞「20年度を境に縮む教員採用」2014-9-14 朝刊

2018年までにIBスクール200校、小学校英語の教科化で、教員の争奪戦が起こる！

2013年の6月、日本政府は「日本再興戦略－JAPAN is BACK－」を閣議決定し、3つのアクションプランを掲げ、1－2－⑦グローバル化等に対応する人材力強化の中で「2020年までに日本人留学生を6万人(2010年)から12万人へ倍増させる。優秀な外国人留学生についても、2012年の14万人から2020年までに30万人に倍増させること(「留学生30万人計画」の実現)を目指す」と目標を示し、さらに「一部日本語による国際バカロレア(IB)の教育プログラムの開発・導入等を通じ、国際バカロレア認定校等の大幅な増加を目指す(2018年までに200校)」という、非常に具体的な数値目標を掲げた。(2013-6-14 首相官邸ウェブサイト)

小学校段階からの英語教育についても、「小学校5、6年生における外国語活動の成果を今年度中に検証するとともに、小学校における英語教育実施学年の早期化、指導時間増、教科化、指導体制の在り方等や、中学校における英語による英語授業の実施について、今年度から検討を開始し、逐次必要な見直しを行う」とし(同上)、2014年には「3年生から外国語活動を始め、コミュニケーションの素地を養う」「5年生以降では、英語を専門とする教員を活用」という教科化・専科化の提言が出された。(朝日新聞2014-10-8)

これは2016年の学習指導要領の改訂に反映され、2020年度に全面実施の予定だという。これまでの例を見ると、改訂と同時に、あるいは先行して一部の小学校で実施されるだろう。

これら政府の計画が、教育の現場にどのような影響を与えるかという点、現在はインターナショナルスクールを中心に 27 校（うち、日本の学習指導要領に基づく一条校は 7 校）という IB 導入校が、2018 年までに 200 校に増えるわけだから、いくら日本語 IB を導入するとはいえ到底間に合いそうもないように思えるが、2015 年に開校の中高一貫公立校である札幌開成中等教育学校では、11 歳からの IB-MYP と 16 歳からの DP（ディプロマ・プログラム）導入を決めた。都立国際高等学校も導入を表明しており、今後公立学校に一気に広がる可能性がある。日本語 DP といっても、体育や芸術など一部英語で行わなければいけない科目は残る上、DP 取得者を受け入れる世界の大学は英語による授業が大勢なので、既存の IB スクールも含め、英語 DP 取得を目指す学校は多いだろう。

小学校の英語については影響はもっと甚大で、全国に小学校は 2 万 1 千校以上あるわけだから、教科化によって少なくとも 1 校に 1 人以上、英語専修の教員が必要になる。当初は担任への研修で間に合わせる自治体もあるだろうが、1997 年に小学校英語を必修化した韓国の例を見ても、いずれ専科教員による授業へ移行せざるを得ないので、初等教育課程を持つ教員養成系の大学は、早急に英語専修の養成課程を設置する必要に迫られている。

さらに、公立小学校の英語教科化と低年齢化で、従来のような小学校英語で差別化ができなくなる私立では、IB カリキュラムを導入して各教科を英語で教えるイマージョン教育、幼稚園段階から英語で保育する幼小連携教育などが進むと思われるが、ここでも人材不足は深刻なので、英語 IB で幼小を教えられる教員は引く手あまたの状況になるだろう。

国際バカロレアの歴史

バカロレア (baccalauréat) とは元々フランス語で、大学などの高等教育機関に入学するための資格およびその国家試験のことで、1808 年にナポレオンによって導入され、現在でも 6 割以上のフランス国民がバカロレアを取得している。(Wikipedia)

国際バカロレアの歴史は 1920 年、スイスのジュネーブに国際連盟が設立され、その職員の子弟のために 1924 年、ジュネーブ国際学校が開設された事に始まる。同年、まだ大正 13 年だった日本でも、横浜インターナショナルスクール (YIS) が開設されている。

その後 1960 年代の初頭から、転勤で世界各地を移動する国際職員の子どものため、どの国でも認められる大学入学の資格 (DP=diploma) と、国際的なカリキュラムを作ろうという動きが始まり、1967 年に国際バカロレア機構 (IBO) の第 1 回総会が開かれ、1970 年には国際バカロレア試験が正式に開始、公式の国際バカロレア・ディプロマガイドが発行されている。(福田 2014)

IB のカリキュラムは当初から、従来の学校の「自分の頭を事実で満たす」教育から、「未来の学生が自身の知識を使うことを学ぶ」というスタイルを先取りしていた。

ヨーロッパ発の国際バカロレアはその後、北米で急速に広まり、アジアにも広がって、1990 年には世界 70 カ国、290 校で導入された。

さらに 1994 年には 11 ～ 16 歳対象の中等プログラム (MYP) が開発され、1997 年には 3 ～ 12 歳対象の初等プログラム (PYP) が加えられた。

3歳からのIB-PYP 導入校が急速に増えている

日本への導入は東京のセントメリーズ・インターナショナルスクールが1979年にIB-DPを導入したのが第一号で、その後80～90年代はインターナショナルスクールを中心にDPの導入が進み、2000年に初めて一条校の加藤学園がDPを導入、その後MYPも導入して、2010年前後からは続々、いわゆる英語イマージョン校がDPを採り入れている。

世界に目を向けると、2014年6月現在で147カ国3,791校がIBを導入しているが、2008年から2013年までの推移を見ると、DPが1,851校から2,402校へ30%の増加、MYPが663校から1,004校へ51%の増加、PYPが493校から1,038校へと111%の大幅な増加となっている。(文部科学省、福山2014)

下記の表を見ても、当初国内でIBを導入した学校はDPが多かったが、インターナショナルスクールではPYPの導入が進んでいることがわかる。一条校へのPYP導入もこれからなので、日本の幼稚園免許、小学校免許を持ったIB教員の養成が急務である。

国際バカロレアの認定校 (図表2：文部科学省2014年6月現在)

名称	都道府県	IB認定年月	PYP	MYP	DP
セント・メリーズ・インターナショナルスクール	東京都	1979年9月			○
カナディアン・アカデミー	兵庫県	1980年9月	○	○	○
サンモール・インターナショナルスクール	神奈川県	1984年7月			○
横浜インターナショナルスクール	神奈川県	1984年10月	○	○	○
清泉インターナショナル学園	東京都	1986年1月	○		○
関西学院大阪インターナショナルスクール	大阪府	1990年10月	○	○	○
加藤学園暁秀高等学校・中学校 (※加藤学園暁秀高等学校・中学校ウェブサイトへリンク)	静岡県	2000年1月		○	○
ケイ・インターナショナルスクール東京	東京都	2002年1月	○	○	○
広島インターナショナルスクール	広島県	2005年4月	○		○
東京インターナショナルスクール	東京都	2005年12月	○	○	
神戸ドイツ学院	兵庫県	2006年6月	○		
京都インターナショナルスクール	京都府	2006年12月	○		
福岡インターナショナルスクール	福岡県	2007年4月	○		○
名古屋国際学園	愛知県	2008年5月	○		○

玉川学園中学部・高等部（※玉川学園K-12ホームページへリンク）	東京都	2009年3月		○	○
AICJ中学・高等学校（※AICJ中学・高等学校ホームページへリンク）	広島県	2009年6月			○
立命館宇治中学校・高等学校（※立命館宇治中学校・高等学校ホームページへリンク）	京都府	2009年9月			○
カナディアン・インターナショナルスクール	東京都	2009年12月	○		
東京学芸大学附属国際中等教育学校（※東京学芸大学附属国際中等教育学校ホームページへリンク）	東京都	2010年2月		○	
沖縄インターナショナルスクール	沖縄県	2011年7月	○		
ぐんま国際アカデミー（※ぐんま国際アカデミーホームページへリンク）	群馬県	2011年10月			○
つくばインターナショナルスクール	茨城県	2011年11月	○		
同志社国際学院	京都府	2012年3月	○		○
大阪YMCAインターナショナルスクール	大阪府	2012年6月	○		
インディア・インターナショナルスクール・イン・ジャパン	東京都	2013年6月			○
ホライゾン・ジャパン・インターナショナルスクール	神奈川県	2013年6月			○
リンデンホールスクール中高学部（リンデンホールスクール中高学部へリンク）	福岡県	2013年10月			○

保育士は外国で取得の資格容認へ

英語が使いこなせるグローバル人材を育成するためには、幼少期からの英語保育が欠かせない（2010, 2011 鈴木）。そこで考えられるのが、英語圏からの外国人保育士の導入、英語が使える日本人保育者の養成、そして英語圏での保育者養成や研修である。

保育士資格は近い将来、幼稚園教諭と一体となって「保育教諭」という名称が与えられることになっているが、政府は極度に不足している保育士の需要を満たすために、国家戦略特区で外国で取得した保育士資格を容認する考えである。（朝日新聞 2014-6-16）

たとえばオーストラリアでは、レベル3という保育士の資格が最短6カ月で取得可能なので、IB校を経験した外国人保育士を採用してIB-PYP校に配置したり、日本人のIB教員をみざす学生をオーストラリアに留学させ、小学校教員免許に加えて保育士の資格を短期で取らせて、3歳からのIB-PYP導入校に就職させるといった事が可能になってくる。

静岡市内で2014年4月に開園したNBインターナショナルキンダーガーデンでは、教育方針として「国際バカロレア認定校を目指す」とウェブサイトにも明記しており、今後IB-PYPのカリキュラムで指導ができる英語保育者や小学校教員は奪い合いになるだろう。

IB-PYP/MYP カリキュラムの特徴

IBといえば、これまでは「知の理論（TOK）」や「社会奉仕活動（CAS）」といった、特徴のあるカリキュラムで知られる、16歳からのディプロマ・プログラム（IB-DP）について語られることが多かったが、今後はIB-DPの教員を国内で調達することが非常に困難であることに加え、小学校段階、あるいは就学前のプリスクールから英語で教育を行うインターナショナルスクールの増加に伴って、IB-PYPを採用する学校が増えそうだ。

東京圏では2020年のオリンピック開催に向け、外国人向けマンションやインターナショナルスクールをつくるため、特区で規制緩和をするという。（朝日新聞 2014-10-2）

東京インターナショナルスクール（TIS）は1994年に開校という、東京の国際学校としては後発に属するが、創立者の坪谷ニューエル郁子さんが2人の娘のために探した学校があまりに費用が高かったため、自分でつくってしまったというユニークな学校である。

設立後早い時期から、ちょうど誕生したばかりのIB-PYPとMYPをカリキュラムに採り入れ、その縁で坪谷さんはIBOのアジアパシフィック地域理事に就任している。2013年には各国大使館に囲まれた南麻布の地に移転したが、TISはプリスクールから中等部までにとどめ、高等部進学を希望する生徒には横浜インターナショナルスクール（YIS）を勧めているそうである。

私は2014年の6月にTISを訪ねたが、ちょうど学年の最終日で、体育館では1年間の学習の成果が展示してあった。

最も特徴的だったのが、7年生が作ったソーラーカーで、「僕たちは13歳で、このソーラーカーをつくった」と誇らしげに書いてある。

IB-MYPではこのような、プロジェクトを通じて必要な事を学んでいくという、探究型の学習を行っているのである。

さらに、教育が行われる現地の言葉も必修で学ぶことになっているようで、日本語の展示もあちこちで見られた。TISでは日本人の優秀なIB教員が、探究型の日本語教育を原則日本語で行っている。この教員養成も、今後は必要になるだろう。

なお、IB-PYPとMYPについては、すべて現地語で行っても良いようで、その意味でもDPより先に普及が進みそうだが、英語が公用語のインターナショナルスクールや英語イマージョンスクール（一条校）では、英語圏の大学に進む生徒が多いこともあって、引き続き英語で行うことになるだろう。ただ外国人教員の採用が非常に難しくなっているため、保育教諭や小学校教諭の資格を持った、優秀な日本人IB教員の需要が増すに違いない。



デンマークの公立小学校と IB スクール

インターナショナルスクールというのは、もともと英語ができる親の子どもが集まるわけだし（TISには日本人の子どももいる）、優秀なネイティブの先生も集まりやすいので、IB教育もうまく行って当たり前…と思われるかもしれないので、私は2014年の9月、他大学のツアーに便乗して、英語が第二言語であるデンマークの教育事情視察に行ってきた。

デンマークは人口が560万人と少なく（ちょうど北海道並み）消費税が25%と高いのに、世界一幸せな国と言われ、教育や福祉のレベルが高く、私は以前から関心を持っていた。

まず訪れたのが、首都コペンハーゲンから北西に車で3時間ほど走った、オーデンセという町にある公立小学校である。ここは移民が多く、以前は8割もいたそうだが、現在は65%ほどが移民の子どもである。

当然、家庭ではイスラム圏などそれぞれの出身国の言葉が話されていて、デンマーク語が話せない親も多い。そこで、子どもたちに平等な教育の機会と未来に生きるチカラを…ということで校長が始めたのが、必修である0年生（5歳児）からの英語教育だったのだ。

見せてもらった4年生の英語授業は、日本の小学校英語のクラスとそれほど変わる

ものではなかったが、英語と数学を担当しているというデンマーク人の先生はすべて流暢な英語で授業を進めており、女性の校長以下、他の先生方の英語も素晴らしく、まるで英語圏の国に来たようだった。子どもたちも、人なつこく英語で話しかけて来てくれた。



面白かったのは、先生方が授業が終わると午後2時～3時ぐらいで帰ってしまうので、もう少し学校にいてもらうため、校長がコンピューターを備えた仕事部屋を作っていて、週35時間労働で、担当科目も2科目まで持つようお願いしているとのことだった。

日本の長時間労働で、担任がほとんどの科目を教える小学校と比べると夢のようだが、このあたりが「世界一幸せ」と言われる所以かもしれない。教育はもちろん無料である。

教室には必ずキッチンが備え付けてあり、先生も子どもも、朝のうちから何か飲んだり食べたりしながら授業をしているのが印象的だった。

デンマークではレゴブロックを教育に採り入れている学校が多く、この小学校でも独立したLEGO Education Centerがあった。専任の先生がいて、風車や太陽電池で発生させた電力で、電子部品を組み込んだレゴのロボットを動かしていた。



レゴといえば、本社はさらに1時間ほど内陸部に入ったビルンという町にあって、人口わずか6,500人という田園地帯だが、レゴの社長が作ったという国際空港があり、ヨーロッパ各地への直行便が飛んでいる。

ここにはレゴランドという、2015年には名古屋にもオープンするテーマパークがあって、それも今回の目的地の1つなのだが、13年にIB-PYPを導入した英語インターナショナルスクールを作ったというので、視察に訪れた。

さすがデザインの国で、レゴを利用した機能的な教具があちこちで見られたが、IB-PYPの理念は忠実に採り入れられていて（忠実にやらないと資格を剥奪されてしまう）、たとえば「探究の単元（Units of Inquiry）」と呼ばれる6つのテーマがあるのだが、これはTISと同様、美しく壁にディスプレイされていた。



この中でも「地球に共存する（Sharing the Planet）」というテーマはIBに特有の概念であり、世界平和のために設立された国際連盟、国際連合の理念を受け継いでいると言えるだろう。TISではこれを子どもたちが表現したレリーフが飾られていた。




「探究の単元」の6つのテーマは次の通り。

- ①自分自身について --Who we are
- ②私たちが置かれている場所や時代
 - Where we are in place and time
- ③自己の表現方法について
 - How we express ourselves
- ④すべての事はどのように機能しているか
 - How the world works
- ⑤社会を体系づける方法について
 - How we organize ourselves
- ⑥地球に共存する方法 – Sharing the planet

IBは決まった教科書があるわけではなく、それぞれの教員がこれらのテーマをもとに、各学年に応じた学習内容やプロジェクトを考えて、子どもたちに取り組みさせるのである。たとえばビルンのインターナショナルスクールでは、How the world worksというテーマの下で、PYP K3（3歳児）と1年・2年生ではLife cyclesというサブテーマで生命の循環について学び、8歳～10歳のPYP 3、4、5年生では、Tectonic plates（地殻プレート）というテーマで、地震などの地殻変動について学んでいて、子どもがTectonic platesの歌まで作って、バンドで演奏していたのには驚いた。

これは後でレクチャーしてくれた担当の先生が日本に滞在していたことがあり、地震や地殻変動に興味を持っていたからだそう。

次のページに、このスクールのIBカリキュラム一覧表を載せる。（図表3）

 International School of Billund	WHO WE ARE An inquiry into the nature of the self, beliefs and values, personal, physical, mental, social and spiritual health, human relationships, including family, friends, communities and cultures, rights and responsibilities; what it means to be human.	WHERE WE ARE IN PLACE AND TIME An inquiry into orientation in place and time, personal histories, homes and journeys, the discoveries, explorations and migrations of humankind, the relationships between the interconnections of individuals and communities, from local to global perspectives.	HOW WE EXPRESS OURSELVES An inquiry into the ways in which we describe ourselves, feelings, values, culture, belief and values, the ways in which we reflect on and enjoy our creativity, our appreciation of the aesthetic.	SHARING THE PLANET An inquiry into rights and responsibilities in the struggle to share finite resources with other people and with other living things; communities and the relationships within and between them; access to equal opportunities; peace and conflict resolution.	HOW WE ORGANIZE OURSELVES An inquiry into the interconnections of human-made systems and communities, the structure and function of organizations, social decision-making, economic activities and their impact on human kind and the environment.	HOW THE WORLD WORKS An inquiry into the natural world and its laws, the interaction between the natural world (physical and biological) and human societies; how humans use their understanding of scientific principles, the impact of scientific and technological advances on society and the environment.
PYP K1, K2 Ages 3-4	ME Central Idea: I am made up of many different parts. Key concepts: form, function Related concepts: similarities and differences Lines of Inquiry: Body parts, our abilities, files and dislikes	GAMES AND TOYS Central Idea: The games and toys that children play with have changed over time. Key concepts: form, connection, perspective Related concepts: culture, communication, prediction, innovation Lines of Inquiry: Games and toys our parents played with, games and toys we play with, games and toys of the future	ART Central Idea: Art is a medium we use to express ourselves. Key concepts: function, connection, perspective Related concepts: imagination, creativity, communication Lines of Inquiry: In what ways we express ourselves through art, how our emotions are expressed through art, how we show respect for other people's work	FOOD Central Idea: Foods are different where ever you go. Key concepts: function, change, connection Related concepts: culture, relationship, production Lines of Inquiry: Cultural differences in food, different ways food is produced		
PYP K3, 1, 2 Ages 5-7	FAMILY Central Idea: Families come in different forms and sizes. Key concepts: form, perspective, reflection Related concepts: identity, culture, influence Lines of Inquiry: The various make up of a family, our role(s) in our family, how cultural values impact families	HOMES Central Idea: Location, materials and cultures influence how we build our homes. Key concepts: form, connection, perspective Related concepts: culture, needs, ownership, locality Lines of Inquiry: Characteristics of a home, similarities and differences among homes around the world	DESIGN Central Idea: Design is a process for solving problems. Key concepts: form, function, change, perspective Related concepts: design, practical, culture Lines of Inquiry: Design solutions, from and to, the process of design, creating, design	WATER Central Idea: Water is vital to life. Key concepts: causation, perspective, responsibility Related concepts: sources, conservation, interdependence Lines of Inquiry: Sources of water, the importance of water, water conservation	SIGNS Central Idea: Signs and symbols help us understand our surroundings. Key concepts: form, function, connection Related concepts: communication, needs, systems Lines of Inquiry: Physical characteristics of signs and symbols, universal language and symbols, systems that are in place	LIFE CYCLES Central Idea: Reproduction of living things contributes to the continuation of the species. Key concepts: form, change, causation Related concepts: reproduction, choice, sustainability Lines of Inquiry: Reproduction as part of a life cycle, eight sand types of life cycles, how human choices can impact life cycles
PYP 3, 4, 5 Ages 8-10	SOCIETY Central Idea: Society has an impact on who we are as individuals. Key concepts: connection, reflection Related concepts: culture, lifestyle, influence Lines of Inquiry: Our beliefs, our values, our cultural backgrounds	EXPLORATION Central Idea: Exploration has led to new discoveries and opportunities. Key concepts: change, connection, innovation Related concepts: exploration, history, innovation Lines of Inquiry: Historical need for exploration, current need for exploration, the importance of continual exploration	STORIES Central Idea: There are many different methods for storytelling. Key concepts: perspective, function, identity Related concepts: stories, tradition, creativity Lines of Inquiry: Story structure, traditional ways of storytelling, modern ways of storytelling	NATURAL RESOURCES Central Idea: The earth's natural resources are limited. Key concepts: perspective, causation, inequality Lines of Inquiry: The location and use of natural resources, the impact of access to natural resources	HUMAN RIGHTS Central Idea: Government systems and decisions can promote or deny human rights and freedoms. Key concepts: responsibility, reflection Related concepts: systems, freedom, choice Lines of Inquiry: Different types of governments, governmental decisions and their impact on people, awareness of our human rights	TECTONIC PLATES Central Idea: Tectonic plates affect the earth's surface. Key concepts: change, causation, form, phylogenesis Lines of Inquiry: The location and movement of the tectonic plates, the effects of faulting plates, its impact on society and the environment

図表 3 : インターナショナルスクール・オブ・ビルンドの IB-PYP カリキュラム

今こそ、小学校英語とIB スクールの教員養成を！

冒頭で述べた、2021年度からの小学校教員採用数の急減と、欧米の大学に見られる職業教育へのシフトに影響を受けて、政府は教員養成系と文系学部削減に動いていると聞く。それでも確実に需要を増やすのが、2020年度までに教科化される予定の小学校英語専修の教員養成と、3歳から始まるIB-PYPの教員養成である。

これら2つは共通点も多いので、たとえば教育学部の初等教育課程の中に英語専修とIB-PYPコースを設けて、英語専修の需要が一巡した後はIB-PYPコースに主軸を置き、小学校だけでなく保育教諭の資格を取らせて、英語プリスクールやインターナショナルスクールへ就職させるのも良いだろう。英語で保育を行うプリスクールの数は増加の一途であり、外国人保育者だけでなく日本人でも保育英検などを取得し、英語力のある学生は真っ先に内定が決まる状況が続いている。

おりしも2016年度に、お茶の水大学が保育園型の認定こども園をキャンパス内に開設するというニュースもあり（朝日新聞 2014-9-30）、大学が保育園を持つことは不可能ではなくなっている。ここは思い切ってIB-PYPを導入した英語こども園をキャンパス内に持てば、外国人の教員や留学生も子どもを預けやすくなり、学生の実習園としても地域のグローバル人材育成にも役に立つ。

ただ、小学校英語もIB教員の育成も今までなかった教育課程なので、指導する人材が全く不足している。教員養成系の大学で、採用急減期に生き残りを図ろうと思うなら、すぐにも準備に取りかかるべきだろう。

参考文献、ウェブサイト

- 朝日新聞 (2014-9-24) 「(人口減にっぽん) 20年度を境に縮む教員採用」
- 日本再興戦略 - JAPAN is BACK - (2013-6-14 閣議決定)
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/saikou_jpn.pdf
- 朝日新聞 (2013-10-24) 「英語授業、小3から 小5で正式教科に 文科省方針」
- 朝日新聞 (2014-10-8) 「英語力『アジアトップ級』へ改善策」
- 朝日新聞 (2013-10-04) 「『開成』説明会に800人 札幌市立初の中高一貫校」
- Wikipedia 「バカロレア」 [http://ja.wikipedia.org/wiki/バカロレア_\(フランス\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/バカロレア_(フランス))
- 福田誠治 (2014-7) 「国際バカロレアの歴史」 学力問題 PT 報告書 国際的な教育プログラム「国際バカロレア (IB)」と日本における学びのあり方、国民教育文化総合研究所
- 文部科学省 「国際バカロレアについて」 http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/ib/
- 福山文子 (2014-7) 「日本における IB 認定校の現状 - 学校訪問および IB 教育フォーラム参加を踏まえて -」 学力問題 PT 報告書 国際的な教育プログラム「国際バカロレア (IB)」と日本における学びのあり方、国民教育文化総合研究所
- 鈴木克義 (2010) 「英語は小学校からでは遅すぎます！」 幼年教育出版
- 鈴木克義 (2011) 「英語幼稚園・英語託児の必要性と将来性」 常葉学園短期大学紀要
- 鈴木克義 (2012) 「子ども英語から保育英語へ」 常葉学園短期大学紀要
- 朝日新聞 (2014-6-16) 「保育士確保は特区で 試験回数を増加、外国資格も容認」
- NB インターナショナルキンダーガーデン 「教育方針」
<http://www.nbik-edu.com/policy.html>
- 朝日新聞 (2014-10-2) 「東京圏の特区、具体案 ビル規制緩和／外国人向け施設」
- 坪谷ニューエル郁子 (2014) 「世界で生きるチカラ…国際バカロレアが子どもたちを強くする」 ダイアモンド社
- 朝日新聞 (2014-9-30) 「お茶大に『認定こども園』文京区が16年開設」